

## 「なぜ差別や人権問題が生じるのか 自分はどう関わればいいか」

### キーワードは「特権」

ネット上を含め差別や人権問題が生じる大きな原因として、差別が生産され持続される仕組みが存在している「社会構造」があり、差別問題の解決の責任を被差別当事者、マイノリティ（社会的少数派）の人びとに強いているマジョリティ（社会的多数派）の存在があります。自分の優位さ「特権」を自覚することにより人権問題の解決にどう向き合うかを考えてみたいと思います。

### 人権は誰の問題？

「私は差別したこととされたこともありません」人権をめぐるこうした言い方によく出会います。この言葉の先に続くのは、「私には人権問題と関係がない」といった考え方です。人権が他人事になっていきます。では、どうしたら人権を他人事にせず、自分にもかわりのある課題としてとらえることができるようになるのでしょうか。そのキーワードは「社会構造」です。差別を「する／しない」という個人の行動として考えるのではなく、差別が「ある」という社会の現実から考えます。差別を「社会の中にあるもの」としてとらえると、「差別のある状態(社会)にどう向き合うか」というスタン

スになります。人権は「差別する人」や「差別される人」の問題ではなく、私たちが社会にどう向き合うか、どんな社会を目指したいのかという問題になります。

### 特権とは

特権という言葉から、特別な権利で一部の人だけが持っているものというイメージが強いと思いますが実はそうではありません。私たちのほとんどは、社会的な立場に伴って何らかの特権を持っています。多数派・主流派としての側面で得ている社会的優位性があるということですが、それは自分が努力をして得たものではなく、望まなくても社会の構造の中で立場についてくるもので特に持っている実感はありません。逆に少数派・非主流派の側は、自分の立場や不利であることをいやおうなしに意識させられています。それを裏返して言うと、多数派・主流派の側の立場には特権があると言えるわけです。

例を挙げてみましょう。

- \*車いすを使用している障がいのある人は移動の自由が制限されている場所が多いが、健常者は自由に移動できるという特権があります。
- \*被差別部落出身者は親しくなっ

た相手に自分の出自を知らせるかどうか、知らせないことが隠れていると思われないか、知られたら関係がどう変化するかといったことを考えます。出身でない人はそのようなことを考えなくてもいい特権があります。

差別をされる側がなりたくてなったわけではないのと同じように、特権をもつ側にもなりたくてなったわけではありません。今の社会の構造の中で特権を「持たされている」と言えます。大切なのは自分の有利性や力をどう使うかということですが、差別のある不正な社会の構造を変えるためにこそ、特権力のある側が積極的に役割を果たさなければなりません。その第一歩は「知ること・学ぶこと」です。「知らなかった・学ばなかった」ことよって、結果的に差別に加担してきたことを見つめなおすことです。

人権教育の取り組みが目指すところは、弱い立場の側に立つて不合理な社会を変革していくことです。

「やってみよう！人権・部落問題プログラム」行動につなげるプログラム  
―（解放出版社 2012年）より

第4回みんなの人権セミナー  
兼人権・同和教育推進者養成講座  
（企業等対象）

### 「在日コリアンと多文化共生」

〜ことなり〜を尊重する社会に〜

#### ◆日時&場所

10月12日（月）

◆企業対象 14時〜15時30分 人権交流センター（昼の部）

◆住民対象 19時〜20時30分 人権交流センター（夜の部）

◆講師 李 明哲氏（関西学院大学人権教育研究室非常勤講師、在日コリアン青年連合KEYスタッフ）

◆定員 各30人（事前申込が必要です）

◆申込締切 10月2日（金）

◆その他 ①託児、手話通訳等を希望される場合は、人権推進室に申し込んでください。

②コロナウイルス感染症の状況によつては、リモート講演か、中止させていただく場合があります。

◆申込及び問合せ先 福祉介護課

人権推進室（人権交流センター内）

☎ 0859-54-2286